

地域労力支援システムの構築

【平成27年度長崎県普及現地事例情報（県央振興局）】

[抄録]

【経営課題の背景】

1. 経営体の維持・育成のため、JAながさき県央で職業紹介事業や労働保険事務組合の認
を取得している。システムを活用した経営体に対する満足度把握ができていない。また、作
業支援者については、農協で雇用している人を「作業支援者候補」としてリストアップして
いるが、支援に対する実際の意向把握が、一部にしかできていない。システムを円滑に推進
するための体制確立が必要である。

2. 規模が大き恋経営体のほとんどは雇用を行っているが、労働災害に対する認識が不十分
であり、また、労務管理能力の向上が必要である。

【活動目標】

1. システム活用農家や作業支援者へのアンケート調査などを基に、システム活用の問題点
を整理し、農協での取の組みに対し支援を行い、システムの円滑な確立を図る。

2. 研修会等の開催により、農業者の労務管理能力の向上等を図る。

[本文]

詳細は添付ファイルを参照ください

課題名	地域労力支援システムの構築（JAながさき県央管内）	振興局名	県央振興局
活動対象	JAながさき県央、JAながさき県央管内の認定農業者等	実施期間	平成26年4月 ～平成27年3月
<p>【対象の概要】</p> <p>JAながさき県央：職業紹介事業や労働保険事務組合の認可を取得。認定農業者（旧多良見町を除く諫早市、大村市、東彼杵町、川棚町、波佐見町）</p> <p>【課題設定の背景】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営体の維持・育成のため、JAながさき県央で職業紹介事業や労働保険事務組合の認可を取得している。システムを活用した経営体に対する満足度把握ができていない。また、作業支援者については、農協で雇用している人を「作業支援者候補」としてリストアップしているが、支援に対する実際の意向把握が、一部にしかできていない。システムを円滑に推進するための体制確立が必要である。 2. 規模が大きな経営体のほとんどは雇用を行っているが、労働災害に対する認識が不十分であり、また、労務管理能力の向上が必要である。 <p>【活動目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. システム活用農家や作業支援者へのアンケート調査などを基に、システム活用の問題点を整理し、農協での取り組みに対し支援を行い、システムの円滑な確立を図る。 2. 研修会等の開催により、農業者の労務管理能力の向上等を図る。 <p>【関係機関との連携（活動体制・役割分担）】</p> <p>県央地域雇用労力支援協議会や関係機関PT会及び振興局支援チーム会において、地域におけるシステムの推進や部会に対する指導方策等の検討を行った。</p> <p>【活動経過】（活動体制、指導・支援の経過と手法等）</p> <p>(1) 労力支援組織の活動支援</p> <p>①支援チーム会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会において、営農センター毎の重点的にシステムを推進する品目を確認した（南部：たまねぎ、ばれいしょ、中部：みかん、北部：茶）。 ・たまねぎ、ばれいしょ、みかん、いちごにおいてシステムによる斡旋を行うとともに、活用実績を整理し、問題点について検討した。 ・システムの改善点などを把握するための農家アンケート調査の内容や実施方法について検討した。 ・新聞折込や情報誌等を活用した作業支援者の募集について検討した。 ・農家に広くシステムをPRするため、関係機関の広報誌によるシステムPRを実施した（振興局だより）。 ・パソコンを活用した円滑なマッチングシステム等についての先進地視察研修を実施した。 <p>②システムの活用支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・システム活用希望農家に対し、営農センター毎に説明会を開催し、地域における労力支援システムや労災保険加入を条件としていること、必要書類の記入方法を説明した。 ・労力支援希望農家と作業支援者とのマッチング方法や作業支援者のリスト化について、関係機関と協議を行った。 ・新聞折込チラシ、求人情報誌掲載等による作業支援者募集を実施した。 ・たまねぎ部会：システム活用農家にアンケート調査を実施した。 (13経営体、回収率100%) ・たまねぎにおいてリストアップした作業支援者から4名の斡旋を実施した。 ・ばれいしょ部会：システム活用農家にアンケート調査を実施した。 (20経営体、回収率100%) ・みかん部会：本部役員会で協議の結果、全部会員を対象に収穫作業での要望調査を実施した。システム活用農家にアンケート調査を実施した。 (17経営体、回収16経営体で回収率94%) ・茶部会：部会役員会等において、斡旋システムのPRを行い、システム活用を推進した。 ・いちご：北部地区でシステムのPRを行う中で、いちご農家が育苗ポットの土入れ作業でのシステム活用を希望した。みかんの収穫作業支援者から2名を斡旋した。 <p>(2) 農業者の労務管理能力の向上</p> <p>①研修会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携し、労働者災害補償保険についての説明を行い意識啓発を図り、労災保険への加入を推進した（ばれいしょ部会役員及び茶部会役員、ばれいしょ・みかん・茶・いちごのシステム活用希望者）。 			

【普及活動の成果】

(1) 労力支援組織の活動支援

- ①支援チーム会の開催：3営農センターすべてでシステムによる労力の斡旋ができた。
②システムの活用支援

平成26年度長崎県央農業協同組合職業紹介事業(斡旋システム)実績

品目名	作業名	地区名	求人者	求職者	求人者	求職者	備考
			システム活用 希望経営体数 (経営体)	作業支援希望者数 (人)	システム活用 経営体数 (経営体)	作業支援者数 (人)	
たまねぎ	収穫・運搬	南部	14	35 内訳:男 27 内訳:女 8	13	25 内訳:男 17 内訳:女 8	
ばれいしょ	収穫・運搬	南部	22	55 内訳:男 34 内訳:女 21	20	28 内訳:男 16 内訳:女 12	
みかん	収穫・運搬	南部	6	23 内訳:男 13 内訳:女 10	4	5 内訳:男 3 内訳:女 2	
		中部	9	52 内訳:男 22 内訳:女 30	9	21 内訳:男 8 内訳:女 13	
		北部	4	9 内訳:男 8 内訳:女 1	4	9 内訳:男 8 内訳:女 1	
		小計	19	84 内訳:男 43 内訳:女 41	17	35 内訳:男 19 内訳:女 16	
いちご	ポット土入れ	北部	1	2 内訳:男 2 内訳:女 0	1	2 内訳:男 2 内訳:女 0	
		合計	56	176 内訳:男 106 内訳:女 70	51	90 内訳:男 54 内訳:女 36	

・農家アンケート結果・・・来年度もシステムを活用する意向のある農家は45戸(92%)、意向のない農家は4戸(8%)。内訳は、たまねぎ農家11戸(85%)、ばれいしょ農家20戸(100%)、みかん農家14戸(87%)。システム活用の意向は非常に高い。作業支援者に求められることは、数の確保、年齢が若いこと、継続的な作業支援、作業に慣れていること、丁寧に商品を扱うことである。みかん農家2戸は、作業支援者が短期雇用を理由に雇用を希望せず、未成立となった。

- ・システム活用を希望しない主な理由は、「作業支援者の能力が不明であるため」である。
- ・茶部会：6戸の農家がシステムの活用を希望している(作業は寒冷しゃ張りなど)。

(2) 農業者の労務管理能力の向上

- ①研修会の開催：労災保険の加入者は現在81戸に増加した。このうち、支援システムの活用者は、たまねぎ農家12戸、ばれいしょ農家20戸、みかん農家17戸、いちご農家1戸の計50戸である。

【対象の声】

- (1) システム活用農家：システムはこれからも継続して欲しい。省力化が図られたので、規模拡大を検討したい。
(2) 関係機関：マッチングを効率的に行えるパソコンシステムの開発が必要(県中央会等との連携)。

【今後の課題】

(1) 労力支援組織の活動支援

①支援チーム会の開催

・たまねぎ、ばれいしょ、みかんでの年間雇用必要量を把握したので、作業支援者の年間雇用計画を検討し、作業支援者を確保し、より円滑な斡旋システム体制の確立を図る。

②システムの活用支援

・みかん部会：作業支援者募集に当たっては、短期雇用となるケースが多いことを考慮した募集チラシとなるように留意する。マルチ張りや摘果作業などの支援要望についても把握する。

(2) 農業者の労務管理能力の向上

- ①研修会の開催：労力支援システムの活用希望が見られる部会に対しては、関係機関と連携し研修会を開催し意識啓発を図る。

【成果の活用及び普及活動上の留意点】

発表・参考資料